



仕納めの心得

園長 日高好治

令和4年の元旦は、まぶしく輝く初日の出を拝むことができ、今年が良い年になることを予感させる朝となりました。

この冬休みに子どもたちは家庭や地域で年末・年始を過ごす中で、初詣や鬼火たき等の伝統的な行事に参加するなどして普段の生活では味わえない体験をしたのではないのでしょうか。一年の計は元旦にありといわれますが、今年頑張ることなどを保護者の皆様とともに話し合われたことと思います。

さて、以前ラジオを聞いていて「仕始めと仕納めの心得」という言葉を耳にしました。寝たきりである奥様を長い間介護されているある御高齢の男性にレポーターがインタビューをしていました。「介護の仕事は、毎日が同じ事の繰り返しで飽きてしまうことはありませんか。」との問いに対して、その男性は次のように答えられたのです。「何事も初めて行うときは、緊張してそのことに対して丁寧になります。慣れてくるとその緊張が消え、それとともに丁寧さをなくしてしまうことがあります。私は、妻の世話が明日できるかどうかは分からない。これが最後の世話になってしまうかもしれないという思いでさせてもらっています。仕始めと同様に仕納めの心得でお世話をさせてもらっています。」

ラジオを聞きながら胸が熱くなったことを覚えています。

「1月は行く」「2月は逃げる」「3月は去る」と言われるとおり、この3学期もあっという間に過ぎてしまいます。園においても、今のクラスでのまとめを「仕納めの心得」で取り組む必要があると改めて思うことです。子どもたちにも、今のクラスのお友達や担任の先生と過ごす日々もあと僅かであることから、一日一日を大切にしてほしいと思います。保護者の皆様、本年も東俣幼稚園の保育並びに教育活動に対しまして、御理解と御支援をよろしくお願いいたします。

【保育信条：尊いみ教を聞いて ほとけの子を育てます】

1月の主題

報恩(ほうおん) = ごおん

「恩」という文字を見て見ますと、「因」と「心」という2つの文字から成り立っていることが分かります。一つの事柄を結果として見る場合、原因から結果が生じる様を具体的に目には出来なくても、それが成り立つまでの原因と結果に至る過程に心を寄せようとする感情を言い当てた言葉だと言えるようです。

なかなか難しいことですが、このように目には明らかに見えない「恩」という感覚を、年間を通して行われる日常のお参りをはじめとして、仏さまについての絵本や紙芝居を見せたり、お話を通したりして、自然と知らしめて行くことができればと思います。すぐに理解することは難しいでしょうが、様々な機会を通して、繰り返し仏さまのみ教を聞くうちに、やがて「生かされている私」であることに目覚めると共に、多くのご恩を感じる事の出来る心の豊かな人へと育っていくものと期待しています。



こども忘年会の一コマ

クラスごとに楽しい出し物が出され楽しい時間を過ごしました



除夜の鐘突き体験の一コマ

一人一人除夜の鐘を突く体験ができました



まだまだ油断できません “一人一人にできる感染予防対策” を！

以前に比べ、新型コロナウイルス感染症の感染者数が減ってはいるものの、少しずつ感染者数が国内でも増加傾向にあります。また、オミクロン株の影響も少しずつ出てきており心配される状況です。県内においても感染者がしばらくは「0」という日が続いていましたが、年末から年初めにかけて少しずつ出始めています。御家庭でも、感染予防に緩みが生じないようにお願いします。なお、健康時とは異なる症状（微熱、軽い咳、鼻水、お腹の緩み、気だるさ、ぐずり等）がある場合は、お子様の健康、他者への影響を考慮して家庭での保育をこれまでと同様にお願いいたします。【下の絵図で再確認を！】

家庭での感染を予防しましょう！

感染していても、症状がないまま気づかないうちに周りの人にうつしてしまうことがあります。基本的な感染防止対策に一人ひとりが取り組みましょう。



マスクの着用



こまめな手洗い・消毒



定期的な換気



体調不良を感じたら
迷わず相談

～自分のこと 家族のこと 友達のこと まわりの人のこと
あなたの行動がみんなを守ります～